

令和6年度 第1回清水区地域包括支援センター運営部会 会議録

- 1 開催日時 令和6年7月11日（木） 14時00分～15時40分
- 2 場 所 清水保健福祉センター 3階 視聴覚室
- 3 出席者 （委員）瀧委員、伴野委員、植野委員、中村委員、丸山委員、小高委員、
佐々木委員、高山委員
（地域包括支援センター）港北、興津川、両河内、港南、岡船越、高部、
飯田庵原、松原、有度、蒲原由比
- 4 事務局 清水区役所清水福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 地域支え合い推進係
- 5 傍聴者 0人

6 地域包括支援センターの令和6年度活動計画及び意見交換

（1）港北地域包括支援センター（以下、「港北包括」）

港北包括：孤食に対するアンケート調査から、年代を問わず住民が形態を含め食に対する関心が高いことがわかり、今年度は食形態の内容も含めた講座を開催したいと考えている。また、65歳未満で脳血管疾患を発症した方には特有の課題があり、若くして役割を喪失し高齢者と同じデイには行けないといった課題が見えてきたので、家庭の中で役割が継続できる家事や調理といった自助具を活用した専門職やケアマネ向けの勉強会の開催を考えている。「自宅ですっとミーティング」は、江尻と辻地区の多世帯に向けた研修として、袖師地区のチームオレンジの活動を紹介することで、地域作りを我が事として捉える機会となるよう検討している。チームオレンジが立ち上がった袖師地区では、地域の自主組織へ認知症に関する伝達講習の他、地域住民の要望から認知症当事者の気持ちを考える機会を持つミーティングを考えている。

丸山委員：勉強会のケアマネの対象は、全員参加型かそれとも参加要件の前提があるのか。

港北包括：対象は、圏域内事業所全部に声を掛けており、特に制限は設けていないが、事業所ごとに参加者数のばらつきはある。

丸山委員：顔合わせということからも一堂に会するのが一番良いと思うが、どの事業所も参加しやすい環境づくりということで、ZOOM等リモートでの開催方法も検討しても良いと思う。

中村委員：若い年代の脳血管疾患の方が自助具を使って調理を行うということで、これを指導するのは、どの機関になるのか。

港北包括：今のところリハパークしずおか依頼しようと考えており、調理に限定せず、家事内容をメインに考えている。

小高委員：感想だが、民生委員の欠員が多い地域とか活動の脆弱化が課題となっている点については心配である。また、IPC（清水区の在宅医療や地域包括ケアに関わる多職種の連携の会）にて地域ケア会議の開催とあり、多職種の方々に関わる包括の姿勢に評価と期待ができると感じた。

伴野委員：全般的な話だが、目標がなんとなく書いてある。もう少し定量的な数字や定性的な内容が書かれていると良いと思う。先ほどのケアマネ勉強会の参加者数の目標や、内容としては昨年よりもレベルアップしてこういう内容にするとといったことを記載するとわかりやすいと思った。圏域の課題にある相談対応についても、今年はどう取り組むということが見えてくると良いと思う。

瀧部会長：若い年代の脳血管疾患の方のための活動について、是非とも圏域内の病院にいるリハビリ職を使っていただきたい。病院にいと若い年代の退院後の支援がなかなか行き届きにくい。まだ介護保険を使いたくないという人もいる。今回は家事にターゲットを向けているので、おそらく女性がメインなのではないかと思うが、男性の方がより課題が大きくなってくると思う。そういった方々の声を拾い上げて新しい活動としてスタートしてほしい。開催した後はまた報告をお願いしたい。

（２）興津川地域包括支援センター（以下、「興津川包括」）

興津川包括：令和５年度はコロナ禍で延期となっていた施設見学体験型の地域ケア会議を実施できた。参加者からは「イメージしやすかった」との感想が聞かれた。また、Ｓ型デイサービスでは、認知症予防の趣味活動の推奨、脳トレとクイズなど楽しく勉強することができたと好評だった。介護支援専門員との連携については、圏域内には居宅介護支援事業所が少ないため、圏域外の介護支援専門員にも声をかけ、自宅ですとミーティングへの参加や顔の見える関係作り、地域とのネットワーク作りに努めた。令和６年度は、地域柄、会議開催場所への交通の利便性に問題があり、開催場所の検討をしながら内容も地域と交流する中で検討している。地域支えあい活動では、興津支えあい隊を生活支援コーディネーターとともに進めている。Ｓ型デイサービスは、各会場年２回の訪問とし、勉強会の依頼があれば随時対応している。介護支援専門員のネットワーク強化では、自立支援プラン型地域ケア会議の後に勉強会の時間を設け、事例を用いてのグループワークなど新しい試みも始めた。継続して圏域内外に参加を促していく。また、子育てトークの会で若い世代にも包括の周知を進めていきたいと思っている。

瀧部会長：令和５年度事業計画書・報告書の「圏域の状況」で、自助互助での課題解決を基本としているということと、問題を先送りする傾向が見られたという記載がある。問題が大きくなればなるほど解決に結びつく手立てや取り組みが難しくなるため先送りしてしまうかと思うが、これについて包括としてどんなアプローチをしていくとか、何か考えはあるか。

興津川包括：問題がまだ浮き彫りになっておらず、地域もなかなかそれに気づけていない

部分もある。そのため、定例会や民生委員とのやりとりの中で、実際に包括が受ける相談内容や生活のしづらさ等を情報共有し、地域に気付いてもらえるような取り組みをしている。

瀧部会長：解決方法を簡単に提示するのではなく、自助互助を進めていく上できっかけ作りをアドバイスするということだと思う。今年度は是非進めて欲しい。また、若い世代への関わりも進めて欲しい。

(3) 両河内地域包括支援センター（以下、「両河内包括」）

両河内包括：令和6年度は令和5年度の取り組みを引き続き行っていく。中でも特に、オーラルフレイル予防の啓発活動、地域全体で認知症の方を見守れる体制の構築、包括の役割と活動の周知、この三つについて重点的に取り組んでいこうと考えている。オーラルフレイル予防に関しては、圏域内に歯科医院がないということもあるが、介護保険の初回認定において、平均年齢が市の平均よりも低く、平均介護度は市の平均よりも重い圏域ということもあり、フレイル予防の重要性を再認識している。認知症の方を地域で見守る体制の構築については、圏域は高齢化率が46%と地域住民の半分近くが高齢者という状況で、実際、今でも認知症で一人暮らしという方が何人かいるが、今後も増えていくことが予想される。ただ、地域の方が隣近所のことを大体わかっておりなおかつ相互扶助の意識が高いので、民生委員を中心に地域にも協力してもらいながら、見守り体制を構築していきたいと考えている。包括の活動と役割の周知については、例年通り広報誌の年4回発行や地域の行事での周知活動を考えているが、その他にも今年度は両河内小中学校4年生の福祉教育で地域福祉マップの作成を企画している。

小高委員：法人内所属の歯科衛生士という強みを生かして、オーラルフレイル予防に努めるという点に感心した。

丸山委員：令和5年度に実施された事業所連絡会での虐待研修会について、内容や出席者を教えて欲しい。

両河内包括：両河内地区に介護福祉関係の事業所が四つあり、その関係者と研修会を行った。包括が中心になり、地域の主任ケアマネと社会福祉士を講師に招いて実施した。

丸山委員：施設は閉鎖的な空間になりやすいので、そういった連携を今後も進めていってほしい。

中村委員：オムツバンクはその後どうなっているのか、教えて欲しい。

両河内包括：地道だが活動は続いている。寄付が月に1～2件あり、要望があれば提供している。

植野委員：参考意見だが、自分が住む浜田地区は両河内地区に次いで高齢化率が高い。そのため、自助共助に加えて「近助」という言葉を大事にし、地域の密着性をよりつけていこうということで活動している。

瀧部会長：身体的フレイルの場合にはオーラルや社会的フレイルの方がかなり先行して

問題になってくる。社会的フレイルはアプローチしようとしてもなかなか外に出てこない人が多く、そういう方々が問題になってくると思う。当事者はおそらく意識が低いので、若い世代に社会的フレイルをぜひ知っておいてもらえると、「うちのおじいちゃんおばあちゃんそうかな。」という気付きにつながる。オーラルフレイルにプラスして社会的フレイルにも着目すると良いと思う。

（４）港南地域包括支援センター（以下、「港南包括」）

港南包括：今年度の重点目標１点目は、支援において早期に適切な関係機関と連携することである。主な取り組みとして、多問題ケース等はホワイトボードを活用し、職員全体で課題の整理と支援の方針を決めている。また、職員のアセスメント力と対応力の向上を目指し、医師会相談室との合同勉強会でケース検証を定期的に行う予定。２点目は、平時から支援者や緊急連絡先がわかるツールの活用を促進することである。主な取り組みとして、昨年同様、自宅ですべてミーティングを開催し、高齢者等が地域で孤立しないための日頃の備えについて検討する予定である。また、個別相談やＳ型デイサービス等に出向いた際、お薬手帳の緊急時記載欄の活用やＳ救セット等その都度説明し、静岡市版エンディングノートで意識付けができるよう活用している。３点目は、認知症に関する理解を得るための活動とした。主な取り組みとして、圏域内の介護事業所に協力を仰ぎ、施設と地域住民との交流が図れる機会を作ること、認知症の理解や見守りの啓発活動の継続、地区社協主催による福祉教育の中で、認知症の人への理解や対応の仕方を学ぶ等の取り組みが予定されている。

伴野委員：相談への取り組みではケース検証も行っているもので、それを例えば事例集としていろいろな人と共有してもらえると良いと思う。また、フレイル予防については、活動の成果が数字で見えるようにすると良いと思う。

瀧部会長：冒頭の挨拶でも触れたが、かかりつけ医でもフレイルを簡単に評価して、ある程度プレフレイルがどの位いるのかとか、令和５年度の数値でも静岡市としては把握している。各地区でこのデータを集めそれに対して取り組みをし、その方々がどの位の期間、要介護認定を受けずに生活していけるかという点が最終的な目標達成度になるかと思う。ぜひこういったところも検討していきながら進めてもらいたい。

（５）岡船越地域包括支援センター（以下、「岡船越包括」）

岡船越包括：今年度職員の半数が入れ替わり、令和５年の実施状況について職員間で共有を図った。昨年までの成果としては、地域に積極的に働きかけたこと、相談時に対応内容を返すことを意識した結果、地域と密に連携がとれるようになり、包括の役割も周知されたと感じている。今年度の重点項目１点目は、職員の対応力の平準化、各職員が専門性を活かし根拠を持った対応ができることとしている。支援方針や進捗状況は、毎日のミーティングに加え月１回の進捗会議

により全員参加で情報の共有をし、継続・終結の判断を確認している。重点項目 2 点目は、地域活動に参加し介護予防の情報を発信するとした。8 月には国保連の健康器具貸与制度を利用し、S 型デイサービスで健康状態の見える化を図り、介護予防に繋げる試みを予定している。重点項目 3 点目は、在宅医療介護福祉の関係者の顔の見える関係を強化しお互いの役割を理解できるとした。昨年度の課題として、機関同士の連携、生活支援コーディネーターとの連携が挙げられていたため、今年度は岡地区、船越地区それぞれで、地域で活動している方達の顔の見える関係作り会議が予定されている。またそこでは男性の地域活動参加についても検討される。包括も会議の目的等を共に検討していき、その中でまた課題が抽出されていくと考えられるので、その後圏域ネットワークの強化として働きかけができればと考えている。

中村委員：介護予防の活動で健康器具を借りて実施するというものについて、もう少し詳しく教えて欲しい。

岡船越包括：国保連の健康器具の貸与制度で今回は I N ボディーというものを借りる。S 型デイサービス 1 会場だけだが、その機械で体の状態を測り自分の体の状態が見える化した上で、できればまるけあ手帳で健康作りの目標を立ててもらい 2 か月後に評価する、ということを予定している。

丸山委員：支援において適切な繋ぎ先に繋ぐという点で、社会資源のマッピングといったものを作成しているのであれば教えて欲しい。

岡船越包括：今具体的な形はないが、情報を積み重ねマッピング等の形に繋げていければと思う。

丸山委員：虐待が発生した直後等、どこに相談するのか緊急事態の中でそれを探すのも難しいこともあると思うので、事前にそういったものがあるに越したことはないように思う。

伴野委員：防災の活動について、今年 B C P を策定していると思うが、その中で関係団体との連携についてはどうなっているか。

岡船越包括：昨年度は勉強会が実施されたようだが今年度についてはまだ把握していない。課題として今後実施していければと思う。

伴野委員：ぜひ今年度中になるべく早く自治会と打合せ等行ってもらいたい。

地域包括ケア・誰もが活躍推進本部：補足であるが、B C P は介護保険事業所としての業務の継続についての計画であり、地域との防災の取り組みに関する計画とは異なるものである。

(6) 高部地域包括支援センター（以下、「高部包括」）

高部包括：高部圏域はあまり大きくない圏域で自治会も一つ民児協も一つであり、公営団地等少々閉鎖的な地区もある中で活動しているため、地域の方々、特に民生委員や自治会との連携を大切にしている。総合相談の実績を見ても、静岡市の平均と比べて民生委員からの相談の割合も多い。その他の関係機関として自治会や医療機関からの相談は市の平均よりも 5 % ぐらい多い。今までの活動の成果

がそのような相談件数として出てきたと捉えており、今年度も引き続き実施したいと思っている。地域と繋がりを持っている中で様々な事業ができると思っており、例えばS型デイサービスなどに関し、保健福祉センターの協力で順番を決めて毎月のように巡回しているが、その中で利用者、スタッフに対しても権利擁護、消費者被害の啓発等ができていますのでこの活動も続けていきたいと思う。また、去年は圏域内の小学校2校で市社協の協力を得ながら福祉教育を実施できた。どちらの学校でも、水害を絡めて地域の高齢者という風に子供達が接するか、どんな風にしたら高齢者は嬉しいかといった話があった。今年も学校等と調整していきたい。その中で今年はケアパスの改正をしたいと思っており、小学生向けのケアパスも予算面で余力があれば作っていき学校教育にも活かしていけたら良いと考えている。

高山委員：「塩田川ネット」とは何か？

高部包括：塩田川は高部地区を流れる巴川の支流であり、その名前を用いたネットワークの名称である。これは圏域の中でケアマネ中心に他の専門職を呼びいろいろなことを教えてもらう、ということを発端に始めたもので、多職種連携の機会である。

高山委員：圏域内に7か所ある公営住宅で、高齢者のみの世帯が多く地域との繋がりや関わりが希薄であるということだが、公営住宅内での繋がりはどうなのか。

高部包括：高齢者のみ世帯が48%であり、住人が「自分達は限界集落だ」と自虐的に話すような団地もある。一方で割とまだ子供がいる団地もある。まだ元気な人がいる団地では、階段を下りてきた所へ自発的にベンチを置きそこで夕方に井戸端会議のようなことをやっていたり、自発的にサロンをやっているといったことがあるので、そういったサロン等へ支援を行っている。

植野委員：高部地区は台風15号の時に相当被害を受けていたが、そういったときの高齢者のいろいろな活動はどうだったのか。

高部包括：昨日、柏尾自治会の打合せに参加した。台風15号による被害では、道路が土砂で動けないということで、S型デイサービスは実施できない会場もいくつかあった。ただ、自治会館の2階を会場としているS型デイサービスでは浸水被害がなかった所もあった。実際に水害に遭った方々へケアマネと協力して水を届ける等、災害支援の仕組みの中で情報を得る機会も多くあった。なので、得た情報を包括からも発信したり、社協のボランティアセンターによるサロンにも参加しながら、地域住民に情報を提供できる手伝いを少しできたのではないかと考えている。

(7) 飯田庵原包括支援センター（以下、「飯田庵原包括」）

飯田庵原包括：例年行っているが、包括だよりを年3回発行し、介護予防チラシも作成し配布する。包括だよりは回覧で、介護予防チラシはS型デイサービス、でん伝体操教室、介護予防講座で配布する。この中で包括の業務、電話番号、場所のわかるチラシも配布する。昨年、包括の場所の問い合わせが多く、今年は包括

の場所を知ってもらうことも意識して考えていく。介護予防チラシは「みんなの介護予防」パンフレットの中から生活習慣や楽しみながらできる運動などの情報をまとめたものを配布して、家でも認知症予防を意識してもらいたいと思っている。また、昨年、災害チェックリストを全戸配布したので、その後S型デイサービスで災害チェックリストを活用しているか聞きながら、常に防災意識を持つように働きかけていく。認知症に関し幅広い世代に理解を求めるといことで、昨年地区まつりで成人向けと子供向けそれぞれアンケートを行った。今年度も実施し、地区の世帯構成等を把握し認知症理解に取り組んでいきたいと思っている。介護者家族の会「いちごの会」はコロナ禍で開催を中止していたが、昨年から再開している。また昨年はVR認知症体験を講座として開催しその後に交流会を実施した。講座では興味を持って参加する人が増え特に民生委員の参加が増えている。今年も民生委員が参加しやすいよう日程調整等進めていきたいと考えている。

小高委員：計画の共通基盤整備の項目で、災害時の口腔ケアの重要性・認識が高まっていることをしっかりと組み込んでいるという印象を感じた。

丸山委員：S型デイサービスの場所が減り、今後運営継続は難しいという記載が気になった。なかなかこれと言った解決策が思いつかないが、このことについて今後どのような対応を検討しているのか、あれば教えて欲しい。

飯田庵原包括：閉鎖した3か所のうち2か所は山間地だった。あとの1か所はそれほど山間地ではなく参加者も20人位おり結構賑わっていたがリーダーが続けられないという理由で閉鎖になった。その後そこは居場所として形を変えているが、居場所となると社協からの補助もボランティアの保険もない。今後どうするか、社協と一緒に包括も関わり地域の方と検討中の状態である。

丸山委員：S型デイサービスなので交通手段等自分で行ける場所がないと駄目かという問題もある中で、継続できない地区がある中でどういう柔軟な対応があるのか、これはどの地域にもある問題ではないかと思うので、解決策があれば他の包括とも共有して欲しい。

飯田庵原包括：山間地の会場では、送迎ボランティアを依頼している会場が1か所ある。

瀧部会長：かりつけ医からの情報提供で、介護予防サービスに繋がたくても繋げる場所が少なくなってしまうと静岡市の介護予防事業としても成り立っていないと思う。これは地区だけの課題ではなく、静岡市全域でボランティアの担い手が減ってきているような印象もある。なので行政の方でも考えなくてはならないことではないかと感じた。

(8) 松原地域包括支援センター（以下、「松原包括」）

松原包括：今年度は重点項目として3点挙げている。一つ目は、重層的支援体制整備事業を視野入れ、障害者相談支援センターと介護支援専門員との連携強化を図る。圏域内にある精神障害者相談支援センター「はーとぱる」や知的障害者相談支援センター「わだつみ」と圏域内の介護支援専門員との合同勉強会を今年度も

継続して行い、連携強化を図っていく。二つ目は、高齢者の権利侵害、虐待や消費者被害の早期発見、予防のための啓発を行う。毎月出席する圏域内4地区の民生委員児童委員協議会、地区社協企画委員会にて包括のかわら版を用いて啓発をする予定。また、包括のチラシを自治会へ回覧してもらい、銀行、薬局、金融機関に配布し、駒越地区カレンダーに広告掲載をしてもらうよう働きかけていく。さらに、昨年度とは別の金融機関にて出張相談を行い、包括の周知や金融機関との連携を図っていく。三つ目では、ケース対応型地域ケア個別会議を積極的に開催し、プラン型地域ケア個別会議は再評価をすることで、ケアマネや助言者に効果を実感してもらえるよう働きかけを行う。

丸山委員：金融機関での出張相談は昨年度とは別の金融機関でということだが、これは出先を拡大したということか。

松原包括：圏域内の金融機関は静岡銀行、清水銀行、郵便局、農協があるが、年度ごと別の金融機関へ出向いており、拡大というよりは順番にまわっているという状態である。

丸山委員：金融機関での出張相談はどのような経緯で行うようになったのか。

松原包括：例えば、「これは虐待ではないか」と金融機関から相談があり包括が連携する機会があったため、それをきっかけに出張相談を行う予定となった所もある。

伴野委員：高齢者世帯や独居世帯が増えており、民生委員からの相談が増えているものの民生委員の活動が弱体化しているという話も聞かれる。そのような中で出張相談はかなり良い効果があるように思う。年金支給日は金融機関にかなり高齢者が集まる。病院でも出張相談は良いように思う。どこに誰が相談に来ているのかといったことが数字でデータとして見えてくると、よりありがたい。

中村委員：ケース対応型地域ケア会議で、事例再評価を行い関係者に効果を実感してもらえるようにするというのは大変良いことと思う。この再評価の仕方は、もう1回地域ケア会議を実施するのか、個別に話を聞いて評価をするのか、どういった方法で行っているのか教えて欲しい。

松原包括：前回出た事例のアドバイザーのアドバイスを受けてその後の評価ということで、どのようになったかということ、再び事例として提示してもらう。やりっぱなしにしないこと、アドバイザーきちんとフィードバックするという仕組みを作るために評価を継続して行っている。

中村委員：もう1回会議をやるということでよいか。

松原包括：そのとおりである。

(9) 有度地域包括支援センター（以下、「有度包括」）

有度包括：包括の周知に関しては、今年度も包括だより発行の他、地域の会議やS型デイサービス、居場所活動等にも出向きながら宣伝活動を続けていく。今年度になり2回程たよりをきっかけとした来所や電話があったため、昔ながらの方法も無駄ではないと感じている。令和6年度の重点項目は、1点目は総合相談の対応力の向上、2点目は医療・介護・福祉関係者と包括との連携強化、3点目

は子供から大人までの高齢者特に認知症高齢者への理解を深めることである。今年度新人職員2名、異動職員2名がおり半分以上職員が替わった状態である。そのような中で、1点目については、相談を受けるにも地域の特徴等をしっかり理解し対応することや、新人に関しては面談技術などを中心に相談者の主訴をしっかりと把握できるよう先輩職員と一緒に面談等を行うようにしている。面談後は、新人職員が出来たことや今後工夫した方が良い点を振り返り、スキルアップを目指していきたいと思う。2点目については、医療・介護・福祉の関係者と顔の見える関係作りをするため圏域会議等を実施する予定。内容は未確定であるが、防災を絡めた地域での自助について考えていきたい。認知症高齢者については、先日小学校で35名程の児童を対象に、民生委員やS型デイサービススタッフと一緒に福祉教育を実施した。アンケートも実施したので結果を来年に繋げていきたいと思っている。

佐々木委員：薬局は今、コンビニよりも多くある。高齢者のほとんどが薬を使っているのが現状で、薬局に少なからず関わっている高齢者は多いと思うので、チラシの配布等包括の周知に薬局を活用してもらいたいと思う。薬剤師会ともうまく連携を取ってもらえれば、薬局1軒1軒にチラシも早く届く。

伴野委員：社会資源マップについてはどうなっているか。

有度包括：引き続き実施しており、先日も圏域の主任ケアマネ話し合いをし、今後も新しい情報があれば更新し活用していくことになっている。

瀧部会長：職員が半分入れ替わり新人もおり、新人教育の現場にしつつ大変な1年になると思うが頑張してほしい。

(10) 蒲原由比地域包括支援センター（以下、「蒲原由比包括」）

蒲原由比包括：包括の相談窓口としての認知度を高めるため、今年もチラシを各所で配付していく。また、蒲原地区社協が子ども食堂を主体とした多世代交流として月1回土曜日に食事会を実施しており高齢者も多く来るので、そこで出張相談を5月から開始している。今月配布するチラシには出張相談のことも載せており、平日は仕事で包括に相談しにくいという世代にも繋がりが持てると良いと思う。その中で、同じ法人内の介護事業部にも協力してもらい、地域の中で高齢者に向けて何ができるのかを一緒に考える機会にしていく予定でいる。また、認知症に関しては、既存で認知症になっても参加し続けることのできる居場所を作っていきたいということで、昨年度、由比今宿のS型デイサービスをチームオレンジとして認証してもらった。今年度はその活動内容の検証を深めながら、他の居場所でも活動を広められるよう会議を重ねていく予定である。防災に関しては、昨年度由比地区の自治会と話をする中で、高齢者の自助意識を高めて欲しいということがあった。当包括は直営で介護予防プランを作成する件数も多いので、そこに関わる人にまずはそれぞれの自助の取り組みについて一緒に考えるような形の働きかけを予定している。

佐々木委員：静岡県薬剤師会では出前講座あり、介護事業所向けの勉強会も実施している。

県薬剤師会へ申請を出せば実施することができる。薬局の役割や介護への関わり方の他、単純に薬のこと等、希望に応じた内容で勉強会を開催することができるので、それもぜひ活用して欲しい。また、清水薬剤師会のホームページには清水区の薬局一覧があり、マップ上で薬局を選択するとその薬局がやれる業務内容が出てくる。最近で言うと医療的ケア児のことや、在宅訪問、緊急時の対応、災害時の対応等それぞれできる・できないということが一覧になって出ている。そういったことも活用すると連携が深まるのではないかと思う。

植野委員：全体的なことであるが、生涯学習交流館にある市民サービスコーナーが今後順次なくなっていく。市では印鑑証明や住民票を取るのにコンビニを利用することを勧めるという話が身近に聞こえてくる。歩行が困難な高齢者にとっては、交流館で済んでいたことがコンビニでボタン操作を覚えなくてはいけないということで一長一短がある。そうなるこれからそういった相談が包括に来るようにも思うので、各部署で情報を早く共有し対応をとっていくことが大事だと思う。

瀧部会長：子ども食堂での出張相談も金融機関での出張相談と同様、気軽に相談できる場所で相談しやすいと思うので、また相談件数の報告等お願いしたい。

7 連絡事項

令和6年度第2回清水区地域包括支援センター運営部会の日程について、令和6年10月の木曜いずれかの日程で、時間は午後2時からを予定。会場が確保でき次第、後日連絡する。

8 閉 会